

「豆電球博覧会(4)」

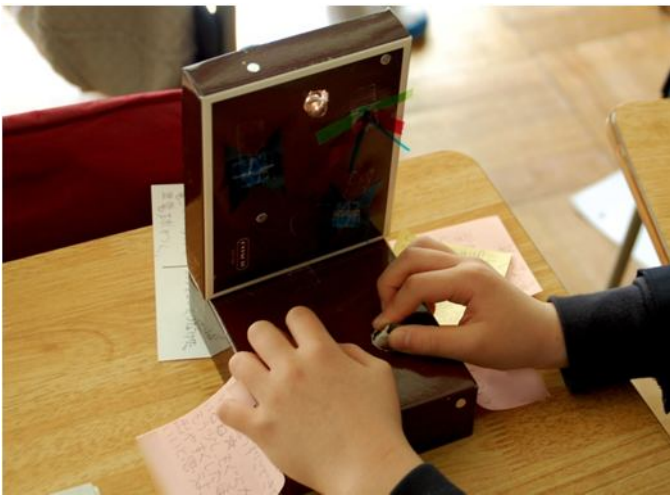
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

今回の豆電球のものづくりは、スイッチの工夫について特によく考えさせた。その結果、さまざまなタイプのスイッチが見られた。スイッチは、導線をそのまま電池ボックスの端子に接触させる単純なものから、アルミホイルを使ったもの、半田線の弾力を利用したものなど、さまざまなタイプが見られた。中には、スイッチをONにしたままにできるメカニズムも見られた。今回もいくつか紹介してみよう。



「地獄の底」という作品

これは、教科書に載っている、工作用紙とアルミホイルを利用したスイッチ。穴をのぞくと、不気味な地獄の底が見えるという趣向。これは、「怖いもの見たさ」の子どもたちに大人気だった。



「もぐらたたきゲーム」

手前のバーを押すと、豆電球が点灯する仕組み。作者は大変苦勞して作っていた。その制作過程を見ている教師も、自分の作品のように嬉しい。



「ホタルイカ」再び

スイッチはONにしたままにできるメカニズム。ホタルイカも単色だったのが、カラーに光るように改造されていて、超グレードアップ。



「もぐらたたきの裏面」

たたいた振動は、わりばしに伝わって、それが電池の極に接触する仕組み。その力加減を調整するのが、子どもにとって非常に難しかったようだ。

実に楽しい。実に面白い。実に愉快。教師がそう思うのだから、子どもたちにとっても最高だろう。できれば、全部の作品を掲載したいほどだ。

(つづく)